米国フロリダ州　柑橘類産業を守る新しい非営利団体が発足

FreshFruitPortal　2025年2月25日

フロリダ州の柑橘類の危機に対応して、フロリダ州柑橘園救済財団（Save Florida Citrus Groves Foundation）がその設立を発表した。この組織は自らを、サンシャインステートと呼ばれる同州の象徴であるオレンジを保護し、同州の柑橘類の伝統を保存するため、小規模な柑橘類生産者に助成金と支援を提供することに専念する最初で唯一の非営利団体であるとしている。

同非営利団体はプレスリリースで、その目標は「『小規模な柑橘類生産者』に助成金を提供して、放棄された柑橘園を再生するとともに重要な農地を商業開発及び宅地開発から保護することにより」、同州の柑橘類の遺産を保存し、活性化することであるとしている。

これは、同州の柑橘類業界がハリケーンの被害とカンキツグリーニング病による生産量の減少に苦しんでいる中で起こったことであり、業界関係者は議員達に助けを求めている。

フロリダ州柑橘類協会によると、フロリダ州はピーク時には2億4,400万箱のオレンジと5千万箱のグレープフルーツを生産していた。2025年1月の米国農務省の予測では、同州はこの生育期間に1,200万箱のオレンジと、120万箱のグレープフルーツを生産すると見込まれている。

米国の研究　柑橘類の摂取がうつ病リスクの20％低下に関連

FreshPlaza　2025年2月26日

ハーバード大学医学校とマサチューセッツ総合病院に所属するラージ・メータ氏が率いる研究では、柑橘類の摂取がうつ病のリスクを20％低下させることが示唆されている。この研究は、柑橘類が腸内細菌ファエカリバクテリウム・プラウズニッツィ（*Faecalibacterium prausnitzii*（*F.prausnitzii*））の成長を刺激する可能性があることを示している。この細菌は気分の調節に関連する神経伝達物質であるセロトニンとドーパミンの産生に関係している。この研究では、この関連性を調査するため、10万人以上の女性が参加する「看護師健康研究 II」（NHS2）のデータを利用した。

メータ氏は、「その効果は柑橘類に特有なようだ。被験者の果実や野菜の総消費量、またはリンゴやバナナなどの他の個々の果実を見ると、摂取量とうつ病のリスクとの間に関連性は見られない」と指摘する。NHS2の研究では、便のサンプル分析も行われ、柑橘類の消費量が多く、うつ病の発生率が低い参加者では、*F. prausnitzii* のレベルが高いことが明らかになった。この細菌は、S-アデノシル-L-メチオニン（SAM）サイクルの経路Iを介して神経伝達物質のレベルに影響を与えている可能性がある。

これらの知見を検証するために、「男性の生活習慣検証研究」でも同様の分析が行われ、*F. prausnitzii* のレベルとうつ病リスクとの間に逆相関があることが示された。メータ氏は、柑橘類の消費がうつ病に与える影響をさらに調査するための将来の臨床試験に関心を示し、メンタルヘルスの管理における食事介入の可能性を指摘した。

出典：The Harvard Gazette